



札幌方面 株式会社 新和  
「地域の医療機関に対する支援活動」事業



株式会社 新和  
代表取締役社長  
新井修さん

地域をハッピーにするために  
医療・福祉・文化を支える

企業活動としての「ハッピーアクション」

戦後間もない1951年、北海道の千歳市(当時、千歳町)に「パチンコホール ニューハッピー」をオープンしてスタートしたが、現在、札幌市に本社を置く株式会社新和を中核とする新和グループである。小さくても確実に歩みを進めていこうという企業方針のもと、さまざまな困難を乗り越え、いまでは札幌市内14ホールを含め、小樽市、千歳市、苫小牧市、函館市、石狩郡当別町に「プレイランドハッピー」を20店舗展開するまでに成長した。

その新和グループでは、ホール名に掲げているような「ハッピー」な社会を作りたいという思いから、暮らしと地域に根ざした社会貢献活動「ハッピーアクション」に取り組んでいる。これは、創業の頃から続けているさまざまな地域貢献活動を全社的に積極的に推進するためのキャッチフレーズでもあり、これによって社会に貢献する企業としての認知度や地位の向上を目指している。「利益の一部を地域に還元することは、もはや企業として欠かせないこと。そうでなければ地域や社会に認められない。それによって得られる評価が、再び企業に還元される。その思



札幌医科大学附属病院1階ロビーで行われる札幌交響楽団アンサンブルコンサート



車いす、シャワー浴用ストレッチャーを寄贈



いは、年々強くなってきている」と、新井修社長は話す。

さまざまな貢献分野があるなかで、新和グループでは、とくに北海道の医療・福祉・文化をサポートすることに力を注いでいる。なかでも北海道の地域医療を担う札幌医科大学・同附属病院への支援、北海道で唯一のプロ・オーケストラである札幌交響楽団への支援、新井社長の出身地でもある石狩郡当別町への支援などが代表的なものである。

北海道の医療や福祉分野への継続的支援

札幌医科大学・同附属病院への支援は、2011年に新和グループの創業60周年を記念し、医療・教育・研究の支援として1000万円の寄付金を贈呈したことに始まる。その後、12年に患者が使う車いす22台とストレッチャー2台、13年に車いす18台とシャワー浴用ストレッチャー1台、さらに今年も歩行補助器25台を寄贈している。これらの器具は、附属病院からの要望を聞き、そのときに最も必要とされるものとして選ばれている。これらの贈呈式の模様は、北海道の民放テレビ局各社でニュースとして取り上げられ、また、地元紙にも掲載されることで、広く

北海道民に周知されており、「そのニュースや記事を社員や家族、親戚などが見て、誇りに思っているとの知らせを受けることも多く、それが経営者として何よりもうれしい」と、新井社長は語る。

また、2011年から毎年、秋に同附属病院1階ロビーで開催される札幌交響楽団アンサンブルコンサート「いま、心をひとつに」を主催している。このコンサートは入院患者や病院関係者のみならず、病院の近隣住民も楽しみにしているもので、病院と地域に暮らす人々の絆の醸成にも一役かっている。札幌交響楽団への支援は、2001年に同楽団が創立40周年記念として英国公演を行った際に遠征費を支援したことに端を発しており、これまで継続的に運営・活動資金の支援を行っている。

さらに、新和グループが長期に渡って継続しているのが、当別町への支援である。これまで小学校の図書購入資金、文化センターの建設基金、緑化推進協議会「緑の基金」、「社会福祉基金」などへの寄付のほか、福祉車両、スウェーデン製レンガ造りパン窯などを寄贈している。また、毎年2月に当別町で開催される「スノーフェスティバル in あそ雪の広場」に2003年から協賛している。

